



日常の活動が発揮する 災害時の地域力

千葉県南房総市職員 渡辺 秀和 氏

千葉県南房総市の
自主防災活動について
伺いました



南房総市は、房総半島の南端に位置しています。昨年9月の台風15号(令和元年房総半島台風)では、広範にわたる家屋被害と、長期にわたる停電や通信網の断絶に見舞われました。市としても先が見通せない中でしたが、一方で、地域の自治組織(行政区)による独自の取組みが多く見られました。

例えば、山間部に位置し、停電が長期化した大井区では、発電機を集めて各家庭を巡回し、住民が自宅で生活を続けられる環境を整えました。また、独自の災害時広報紙を発行し、区域住民への情報提供にも取り組んでいました。

他にも、海に近く、家屋被害が多かった川口区では、寺院を拠点に独自に災害ボランティアの受入れを始めました。また、区民が一目でわかるようボランティアにカラータオルを配布するなど、住民が安心できる環境づくりに取り組んでいました。

どちらの事例も、日頃から「人のつながり」を大切にしていたからこそ、住民の生活と安心を支えることができたのだと感じます。自然災害や新型コロナウイルスなど、様々なリスクに直面するいまこそ、住民自治の力が問われているのではないのでしょうか。

らいさま NEWS

ニュース1] かんぴょう条例が3月16日から施行

令和2年3月市議会において「かんぴょう条例」案が全会一致で可決されました。条例は10条からなり、基本理念は第3条に「かんぴょうの生産または加工は、地域社会の活性化に貢献する持続的な産業として育成されなければならない」などとうたわれています。条例ができたことで、生産者や消費者、取扱業者の結び付きを強くし、消費の拡大が期待されています。(下野市の平成30年度のかんぴょう生産量は157トンで日本一ですが、生産農家の高齢化という課題があります。)

下野市の自治基本条例の前文には、
生産量日本一を誇る
かんぴょうが記載されているんだ。



ニュース2] 市長といきいきランチトーク

令和元年10月19日、待望のランチトークが実現しました。当編集委員会に市長も関心を寄せていただいております。これまでの取材経過や記事内容等の話題に花が咲きました。

当日は、編集風景を再現すべく、これまでの取材記録の一部を会場内に掲出しました。



編集後記



今回は、住民主体の防災活動について古今の取材を通し地域の特性を感じることが出来ました。一様に防災対応が論じられないと思いました。だからこそ、それぞれの地域ごとに住民が連携し、自ら地域の特性と危険性を予知して命と財産を自ら守る術を考えておかなければならない時代が到来しています。それは、言うまでもなく地球規模の温暖化により異常気象による風水害が毎年の事となり、災害の無い下野市などと思っていると足を掬われかねない時代となっているからです。らいさま12号を機に自主防災について一考していただければ幸いです。今回はコロナ禍での取材方法で苦慮いたしました。取材先の対応ご協力をいただき、初のリモートアクセスでの取材にチャレンジしています。(K)

【表紙】 国分寺境内に所在した火の見櫓